

## 「ないと食べたくなる道産米の話」

同友会大学同窓生の皆さま初めまして、今回の Comrade Letter を担当させていただきます、第 72 期卒業の(株)アイワードの三浦仁志と申します。つい先月卒業したばかりで、卒業式に渡された自分の点数表をたまに見返しては、もう少しレポート頑張れば良かったと反省しております。が、職場の上司、同僚、同友会事務局の皆さん、そして同期の同友会大学メンバーの皆さんのお陰でどうにか卒業することができ感謝しております。

さて今回は同友会大学の講義にもあった北海道の農業に関わる問題を・・・という大げさですが我が家で起きた米不足のお話を書かせていただきます。

1~2 か月ほど前に我が家のお米が無くなったので妻と一緒に近所のスーパーにお米を買いに行きました。ところがいつも買っている 10Kg 袋のお米が売っていない。仕方なくちょっと割高な 5Kg 袋のお米を購入しました。2 週間ほど後そのお米が無くなり買いに行くともう 5Kg のお米も売っていない。お店の人に聞いても「いつ入荷するか未定です」ということで、他のスーパーに行ってみましたが売っていない。ニュースや SNS でちらほら話題になっていた米不足の問題でいよいよ我が家も白いご飯を食べることが出来ないとは！と驚きました。お米を諦めてスーパーから出て車を運転していると、よく通る道にあるレストランでは「ごはんお代わり自由。食べ放題！」ののぼりが立っていてなんとも羨ましい。

先月の後半には、新米も出回りスーパーの店頭でもお米がないという事はなくなりましたが、物価高の影響もあってか価格が高い。昨年の 1.5 倍以上の価格になっているのでは？とまたびっくり。米不足や価格高騰の原因には気候変動による不作も影響しているそうで、地球温暖化の問題はいろいろな場面で深刻な影響を及ぼしているようです。

北海道の農業は日本の食を支える重要な産業ですが、気候変動や後継者問題、燃料や資材の高騰といった様々な問題に直面しています。その一方で将来性のある市場として期待もされています。私は印刷会社に従事していますが、米どころの秋田県のある印刷会社ではお米の包装パッケージ印刷から始まりお米の販売も手掛け秋田米の販売拡大に成功したという事例や、最近では日本を代表する印刷会社の TOPPAN さんが農業ビジネスに参入している事例もあります。

印刷業と農業はまったく異なる業界ですが、結びついたら案外すばらしいビジネスモデルや課題解決の可能性があるのであるのでは？と思っています。

2024年10月10日  
株式会社アイワード  
三浦 仁志 (72 期卒)